

第7回
台東区基本構想策定審議会

日時 平成30年3月23日
会場 台東区役所10階1002会議室

台東区企画課

○出席者 (27人)

会長	懸田 豊	副会長	吉川 徹
委員	安島 博幸	委員	片山 泰輔
委員	山谷 修作	委員	有村 久春
委員	宮崎 牧子	委員	西 智子
委員	伊藤 正次	委員	太田 雅久
委員	本目 さよ	委員	小坂 義久
委員	早川 太郎	委員	秋間 洋
委員	石塚 麻梨子	委員	河野 雄太
委員	成田 多恵子	委員	山藤 弘子
委員	黒田 収	委員	小田切 満寿雄
委員	早津 司朗	委員	二木 忠男
委員	富士 滋美	委員	牧田 としみ
委員	野坂 羊子	委員	峯岸 由美子
委員	石原 喬子		

○欠席者 (3人)

委員	守屋 有晶	委員	安倍 智
委員	佐々木 聡		

○事務局

企画財政部長	佐藤 徳久
企画課長	前田 幹生
財政課長	酒井 まり
情報システム課長	飯田 辰徳

(午前10時00分 開会)

1. 開会

○事務局

おはようございます。年度末のお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。それでは会長、進行をよろしくお願いします。

○会長

おはようございます。早朝からの会議にご出席いただきありがとうございます。早速第7回基本構想策定審議会を始めたいと思います。まず事務局から、本日の配布資料および委員の出席状況についてご報告いただけますか。

○事務局

—配布資料及び委員会出席状況の報告—

○会長

ありがとうございました。本日の審議会の傍聴についてお伺いします。傍聴希望者はおりますか。

○事務局

本日3名の希望を受け付けています。

○会長

原則公開となっていますので、傍聴を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

それでは入室していただきます。ありがとうございます。それでは本日の審議会議題に入りたいと思います。

2. 議題 1. 区の計画について

○会長

最初の議題は、区の計画についてです。これは既にお諮りしたのですが、中間報告をまとめるにあたって、最終的な確認のために、改めてご説明いただけますか。

○事務局

—配布資料 1 「区の計画について」について説明—

○会長

ありがとうございました。本審議会では、まず赤線で囲んでいる基本構想について、さらに長期総合計画の施策の方向性までを答申するということになっていますので、よろしくお願いします。ただ今ご説明いただいた区の計画について、ご質問ありますか。よろしいですか。

(ご質問・ご意見等なし)

3. 議題2. 台東区基本構想中間のまとめ（案）及び施策の方向性（案）について

○会長

それでは議題の2です。台東区基本構想中間のまとめ（案）及び施策の方向性（案）についてご議論いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。それでは事務局お願いします。

○事務局

一配布資料2-1「台東区基本構想中間のまとめ（案）」、2-2「施策の方向性（案）」について説明一

○会長

ありがとうございました。基本構想中間のまとめ（案）、及び施策の方向性（案）のご説明をいただきました。施策の方向性（案）は、今後の議論を踏まえて、再度ご審議いただくということになっていますので、本日の審議会では、特に基本構想中間のまとめ（案）についてご議論いただきたいと思っています。

それぞれ小委員会でご議論いただいた内容、あるいは審議会での議論を踏まえてつくっているわけですが、内容等につきましてご意見を頂戴したいと思います。

まず1ページ「世界に輝く ひと・まち たいとう」という将来像についてです。もともと将来像は一つにするということでしたが、この将来像につきましていかがでしょうか。それぞれご意見を頂戴できればと思います。

○委員

将来像についてということですが、その前に一点だけ全体の話で確認したいことがあります。

計画の体系について、基本構想があつて、長期総合計画があつて、それぞれ基本目標と施策の方向性がある。施策の方向性に関しては、今後庁内で話を詰めていくということだったのですが、基本目標のところに関わる話なので、確認をさせていただきたいです。

基本目標と施策の方向性を両方見比べると、二つがセットになっているのかなと思うところがあります。例えば教育分野では、基本目標が割としっかり書かれていて、施策の方向性はとてもさらっと書かれていたり、安全安心分野では、逆に施策の方向性に割としっかり書いてあつて、基本目標のほうにはハード面の部分の記載が全然なかったりしています。基本構想と長期総合計画の関連性は分かっているつもりではあるのですが、基本目標と施策の方向性は、今回つくっていく中で、ある程度セットで見えていくべきというような感じなの

ですか。

○事務局

もともと20年後の望ましい姿を小委員会でまとめていただいた文章を基に、それぞれ基本目標も施策の方向性についてもできていますので、ある程度セット論というところもあります。今後、小委員会からいただいたご意見以外にも、区の施策として、方向性に記載しなければいけない部分もあるのではないかと、いうところは、そこは庁内で詰めさせていただき、それを加えた上でご議論いただきたいと思っていますところです。

○委員

全部を重複させて書くことが良いことではないということも分かっていますし、目標と施策の方向性はそれぞれ違うものということは分かっているのですが、ある種重複していても書かなくてはいけないことがあるのかどうかの確認だったのですが、そこはまた後で議論することになると思うので結構です。

全体の将来像についてですが、これは単純に私の意見です。前回は発言をさせていただきましたが、住んでいる人にも、台東区を訪れていただける人にも、働きに来ていただいている人にも、一番大事なものは、私は安全安心ではないかと思っています。ここの説明文の中に、「全ての人々の安全安心が守られている」という一文があります。将来像の中で「安全安心は地方自治体の目標としては当たり前だろう」というところもあるのかもしれませんが、当たりのことをあえて書くというところに、私個人としては意義があると思って発言した部分があります。この将来像が悪いとは言いませんが、一応意見だけ言わせていただきます。

○会長

ありがとうございました。冒頭ご指摘にありました基本目標と施策の方向性についてですが、本日基本構想をまとめて、それをより具体的な計画に落とし込むところのつなぎの部分に施策の方向性というところに書き込んでいただきたいと思います。基本構想の中で、皆さま方のご議論の中で、あまり分野を意識しないで、もっと横断的にまとめろということがありましたので、そのようなかたちで基本目標をつくっていただいて、さらにそれを具体的な計画のときに方向性というかたちで各分野を記載していただくということにしています。次回のご議論等々で、施策の方向性というところでまたご議論いただければと思います。

重複については、特に何かありますか。重複された内容が出てくることについてです。

○事務局

もともと先ほどもご説明したとおり、20年後の望ましい姿から導き出している文章なものですので、もともと一つだったものですから、ある程度重複する部分は出てくるのは、そ

れはもちろんあると事務局としては考えています。施策の方向性の中でまとめる際に、必要な部分はしっかりそこに落とし込んでいかなければいけない部分もあろうかとは思っているところです。

○会長

委員からは、将来像そのものに安全安心というものを表すことをもっと前面に出したほうが良いのではないか、というご意見を頂戴しています。他に何かご意見はありますか。

○委員

安心安全はどんな時代でもこれは当たり前のことで、誰もこれに対して反対する人はいないので、「安心安全なまちづくり」、「犯罪のないまちづくり」は当たり前のことです。誰もがどんな時代でも要求することだと私は思っています。ですから「それを使うな」とは決して言いません。しかし、このようなことは普通に当たり前のことなので、私はこの文章を見て、「無難に、最終的にはこのような文章で終わってしまうのかな」と思います。

皆さんの議題から出ていなくて、決して忘れてはいけないことは、現在4人に1人は高齢者の時代に入っています。これから少子化高齢化が進んでくることは間違いありません。20年後の2040年頃、この時代には高齢化の最高のピークが来ます。1971年から74年までの間の人たちは、ちょうどこの時代に高齢化になります。このときに、医者関係はどうするのか、介護サービスはどうなのか、医者が少ないのではないか、ベッド数が少ないのではないか、細かいことをいえばこのような問題がたくさん出てきます。このような問題を少子化高齢化の時代にこれから入る、今までの時代と構想が違う、これから、今年こそ変えた本当の構想に持っていないと、流れが少し違うのではないかと思います。これは日本だけではなく、世界的な問題です。そこのところ何か欠けているような気がします。そこをもう少し詰めてもらったほうが良いかと私は思っています。

○会長

ありがとうございました。これから描く基本構想は、今までの環境変化ともう完全に断絶したところの環境変化が現実に訪れるということがもう目に見えているということであるので、そのような点をもう少し将来像の文言の中に組み込んでいけないかというご意見だと思います。

○委員

今議論されていたこととも関係するのですが、私も今回この資料を読ませていただいて、うまくまとめていただいたとは思ったのですが、少し平板な感じがしました。そこがなぜかと思ったところ、やはりこの安全安心に関わる場所です。確かに安全安心を目指すのは全ての自治体そうなのですけれども、他の自治体ではない、ものすごい数の人が訪れるこの台

東区でこれを掲げることに意義があると思います。これだけの観光、文化は他の自治体ではありません。それから、これまで議論してきたとおり、新しい住民の人たちを受け入れることで、外国人を含めて色々な人たちが住んでいきますし、また、ここで新しいビジネスを起そうとなれば、変化をしていくわけです。そのようなすごい変化があるにもかかわらず、安全安心を確保できるというのはとてもチャレンジングな目標です。

そのような意味では、この9ページの書きぶりも、台東区は「住みたい」、「働きたい」、「訪れたい」と思えるまちづくりに取り組み、「誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまち」を実現しますと、訪れてくるのは将来のような書き方なのですが、この20年間に訪問客も、あるいは新しく住む人も、ここでビジネスをしようと思って起業する人も入ってくるわけです。動的というかダイナミックに動いている中、そこでこの安全安心を実現する、動きがあるのが将来さらにその先というような書きぶりになっているのが、少し平板な感じがする原因です。この20年間ものすごく人が入ってくるということを掲げた上で、「それにもかかわらず安全安心をきちんと確保できるような挑戦をします」という書き方にすると、台東区らしいチャレンジングな構想になるのではないかという気がします。

○委員

将来像のキャッチフレーズ、説明文を楽しみにしていましたが、びたっとくる中身だと思っていて、うれしく思っています。今までの議論を踏まえていると思いますし、基本的にこの構成はとても賛同するところがあります。

ただ、少し考えていただくとありがたいのですが、「世界に輝く ひと・まち たいとう」というこの将来像の文言は置いておきまして、その説明のところは四つの文章になっています。四つの文章をどのように組み立てたら良いかという辺りが一つのポイントになると思います。

まず一点目に申し上げたいのは、形式上のことですが、最後の2行が「台東区は実現を目指します」といういわゆる敬体のかたちになっています。ところが後の三つの文章は常体の結びになっています。このところはどうかということです。イメージとしては、最後に「実現を目指します」というか、全ての四つの文章を「守られています、続けます」というような言い方はどうだろうかということのを少し検討いただければありがたいです。

二つ目は、先ほど安心安全ということの話があって、20年後ということ考えたときに、三つの文章の中で、上から三つ目の「そして、このまちに集うすべての人々は希望と活力」という言葉があります。20年後に私たちが希望と活力をどのように求めるかというのは、これは最初にきてほしいと思います。したがって、「台東区に住む人、働く人、訪れる人、すべての人々は希望と活力にあふれて」とこれを最初に言って、その後に「安全安心や誇り、憧れ」というようにつなげたらどうかと思います。上の三つの文章のつなげ方、そこにこの将来像の「世界に輝く ひと・まち たいとう」をどのようにイメージするかです。私が理解するには、この「世界に輝く」という辺りがとても良いキーワードになってくると思いま

す。そのような意味で、この落としどころの四つ目の文章と上の三つの文章をどのように順序立てるかというのが一つの議論になると良いと思います。

もう一点、最後に細かいことを言って大変恐縮ですが、この2行目のところに人々の誇りや憧れと、「や」で結んでいます。これは、「と」が良いのかどうかという問題です。「や」というと、どうしても結び言葉としては拡散するイメージがあります。「と」にするとぎゅっと絞ります。誇りと憧れはある意味では絞りますので、どちらのほうが語感として良いのかということです。言葉の強さなどそのような意味も含めてです。

それから最後の下から2行目の「ひと」も「まち」も輝く、これも、「も」を使うのが良いのか、「ひと」と「まち」が輝くのが良いのか、そのような言葉の使い方がイメージを膨らませますので、その辺りをどのような言葉にするかというのは、この短い文章の中で重要な意味を持つと思います。

また、私は、「たいとう」と平仮名で表記していることも非常に意味深いです。これを漢字にしない意味、そしてこれから20年後を考えると、ローマ字で「TAITO」と書くのも良いかと思います。国際的なイメージで、どこの国の人でも分かる「TAITO」という言葉にするのも一つかと思っています。

基本的には事務局でつくってくれたものは、中身はよく分かるし、台東区をよく表していると私は思っています。

○会長

ありがとうございました。この辺は今後詰めていかなければいけないと思います。

○委員

こちらの将来像を読ませていただいて、やはりとても平板的だなという印象です。私もこの区が大好きなので、このキャッチフレーズは顔になるのではないかと思います。この将来像の言葉をそのまま使うにしても、語順一つでだいぶ意味が変わってくるのではないかと思います。例えば「ひと、まち、世界に輝きたいとう」であれば、人とまちがとても主体的に輝いていると捉えられますし、「たいとう、ひと、まち、世界に輝く」ですと、台東区が宣言しているような言い方になると思います。あくまでも色々な個性を持たれた方がこのまちでありのまま活躍していくことができるという願いを込めたときに、「世界に輝く」よりも、「ひと、まち、たいとう」を先に持ってきていただくとイメージしやすいと思いました。

それから、先ほどお話があったように、このようになり区の内情も変化してきています。色々な方々と共生していく時代にもう入っていますので、「世界に輝く」なのか、「世界と輝く」のか、「世界で輝く」のかで異なると思います。「世界で輝く」といえば、もう日本を飛び出してという意味になってくると思います。「世界と輝く」というのであれば、世界情勢に合わせて変化していくというようになると思います。短い文章でもこれからの将来を意

識した区民が主体性を持って将来楽しみになるようなキャッチフレーズを考えていけたらと思います。現状のこの将来像でつくっていただいたものが、今回挙げさせていただいた基本目標をより網羅できるようになれば良いと思って昨日考えました。

○委員

それぞれのページの右側に写真のページがありまして、恐らく左の内容をうまく表すような写真が選ばれるのだらうと思います。この写真を的確に選ぶのも非常に大事だろうと思っっているのですが、これには写真のキャプションが付くのでしょうか。

それから、一応3枚ずつページに割り振られていますが、この1ページを使って3枚は数が少し少ないかなという印象を受けます。あるいは、3枚もう少し小さくしたほうが良いかと思っいます。今は何となく間が抜けてしまうのかという感じがします。この辺はいろいろな中身を、あまり少なくするとそれが代表してしまうので、もう少し数を多くしていろいろなことを伝えたほうが良いのかという気もします。

もう一つは、これ自体がもうでき上がりのイメージかどうかということです。もう一度これをパンフレットのようなかたちで再編集して、デザインをして、もう一度作り直すのかということもあります。その辺りについて、この写真の扱い等も含めてお聞かせいただけたらと思っいます。次回は写真が入ってくるのでしょうか。

○事務局

お答えします。でき上がりの冊子、現行でいいますとこの冊子なのですが、これをイメージしていただきやすいように今回皆さまにこのような体裁でお出しさせていただいています。ですから、まだ写真の大きさや中身は全く決まっています。これは実際に冊子をつくる際に、このページに合うようなものをチョイスして掲載していきたいと思っっています。大きさ等についてもまだ何も決まっていないという状況です。

審議会としては、最終的には答申文という文章でいただくかたちになっていますので、それには写真のようなものは一切入りません。あくまで文章として、答申文としていただく、出していただくというかたちになります。

○会長

ありがとうございました。前回の基本構想は、三つの将来像を描いていますので、比較的书きやすいものがあつたわけですが、今回はそれを四つの基本目標を支えるものとして一つに集約しなければいけないということです。しかしながら、20年間残るものなので、この将来像の最初の文言については慎重に決めたいと思っいます。それぞれの受け取り方が違うわけで、また区としてどのような方向で将来像を描くのかということにも関わってくるかと思っいます。今のご議論、ご指摘を受けて、事務局のほうで何かありますか。

○事務局

事務局としては、前回の審議会で各委員から将来像に込める思いや考え方をお伺いし、それを基にどのような言葉が一番端的に表すだろうかというところで一つ考えたのが、この「世界に輝く ひと・まち たいとう」という文言です。先ほど、例えば「人、まちを最初にしたらどうか」といったご意見があったと思います。基本的にこの言葉はいろいろ組み合わせによって、例えば「ひとが輝く」、「まちが輝く」、先ほど「世界が」なのか「世界と」なのかということもありましたけれども、そういった色々な言葉の組み合わせができるワードを組み合わせているつもりでもあります。ですから、そのような色々使い道のある将来像、広がりのある将来像にならないかというところの考え方に基づいて、このようなかたちにさせていただいています。

それから、説明文につきましても、この後の基本目標をある程度表すようなかたちにしていくと、四つの基本目標としっかりつながった将来像になるということも意識しながら書いたつもりではあるのですが、いろいろその辺は順番にしても、ご意見は色々あろうかと思っていますので、その辺をお聞かせいただけると、いただいたご意見を基にこの辺の文章を直していきたいと思っていますところ です。

○委員

事務局の苦勞の跡がたくさん見えるので、私は、今日はきついことは言わないというように思っています。ただ、この間も予算委員会の中でありましたが、例えば推定嫡出子、民法上で本当に不幸な、戸籍が取れない、戸籍がない子どもが例えば1人いるとしたら、その子をどうやって自治体は救うのか、つまり国の法律の矛盾は地方自治体では救えるわけです。そここのところで戸籍がなくても住民票をつくる、学校に行けるというところが、私は地方自治体の一番大事なところだと思います。輝くというのはそのようなことだと思います。地方自治体の輝かせ方です。そのとき、世界というのは、私はあまり好きではないですが、良いです。なぜかというと、「ひと」は入れてもらいました。「ひと」がキーワードだとたくさんの委員の方から出て、「ひと」がここに入ったことで非常に引き締まったということで、良かったと思います。

そのような意味では、この将来像でせつかく「ひと」を入れたのであれば、基本目標のそれぞれをまちの実現で統一しましたが、ここに「ひと」がどこかに、全ての基本目標に入らないかなと思います。せつかくまちが入っていますので、まちの実現にしたのかもしれませんが、今の基本構想と違うという点では「ひと」を入れていただけないかと思います。これはリスクもあります。「ひと」をあまりかたちづくと、心の中まで踏み込むようであまり良くないところもあり、少し悩ましいところですが、「ひと」を入れたのは良かったと思いました。

○委員

将来像を最初見て、文章としては非常に良いのですが、安全安心に前に出てくる、先頭に來てしまうと、当たり前のごとでふわっとして、つかみどころがないような感じがして仕方ありません。人々の誇りや憧れであり続ける、希望と活力あふれる、生き生きと活躍している、その環境が全て安全安心に守られている、という意味でいうと、これが最後にきたほうが、重みがあって良いのではないかというような印象を受けました。

それから、「多彩な文化」とありますが、文化という一括りが良いのかどうか、基本目標や施策の方向性について、文化だけでなく、例えば町会組織も自信を持って我々台東区の誇りだと思ったり、観光資源なども全て誇りで、色々なものが出てくると思います。それを全部一つの文化とくくるのではなく、もう少し何か良い表現がないか考えながら今話しているのですが、この辺も一考いただければと思います。

○委員

将来像の「世界に輝く ひと・まち たいとう」、何か硬いような感じがします。私はこれまで、「台東区は下町という言葉はやめよう」と言ったことがあります。下町は英語でいうとダウントウンです。台東区は世界一の観光区になりつつありますから、下町ではなく、私は「粋な」という言葉を使ったらどうかと提案したことがありました。私が思うには、「ひととまちが粋に輝くたいとう」このほうが柔らかいのではないかと思います。いっそこれを機会に下町という言葉をおミット（除外）して、粋だというムードに持っていく一つのチャンスでもありますから、「ひととまちが粋に輝く台東」というのは良いと思います。

○会長

ありがとうございました。役所の文言で書いていくわけにはいかないのです、できるだけ頭の柔らかい人を入れてご議論いただいて、なおかつ国語的に間違いないような、誤解されないような文言にしていかなければいけません。この将来像について、他に何かご意見いかがでしょうか。

○委員

一点確認させていただきたいのですが、この将来像「世界に輝く ひと・まち たいとう」というのは、キャッチフレーズとして今後使っていくものなのでしょうか。それからもう一点、前の基本構想であると、三つのところから「にぎわい」と「いきいき」と「下町」を取ってきたというように、同じような将来像があったのですが、今回はそのようなわけではないのですね。どのように組み立てたのか、改めて簡単に構わないので教えてください。

○事務局

委員からお話しありましたとおり、現行の基本構想ではキャッチフレーズは設けたので

すが、それは将来像が三つあったというところもありまして、それを分かりやすくというところが必要性としてありました。今回は以前の審議会でもご説明しましたが、やはり区民の皆さまにより分かりやすく使っていただけるような、そのようなイメージでキャッチコピー的につくりたいということは最初にご説明させていただいていますので、将来像ではあるのですが、キャッチコピー的にも使える、そのようなことで今回はこのようにまとめたということです。

○委員

そうすると、多分渋谷区の「違いを力に変えるまち」それから海士町の「ないものはない」にも似ているのかと思います。ただ、一般に広めようというところもあるとしたら、このキャッチフレーズは、何と言えよいいのか、残念ながら流通しなさそうだと思います。行政の示すというようなものだとすれば、将来像を示すものだけという話であれば、これでもまあまあというところはあると思いますが、一般の人たちにもなじみがあるように、とするようであれば、先ほど委員がおっしゃっていましたが、「粋なまち」や「粋」など、そのような台東区らしい文言、もう少しキャッチーなコピー、フレーズを使ったほうが良いかと思いました。これは世代の問題なのか、もしくは感覚の問題なのか分かりませんが、これを見たとき、違和感がありました。行政としての将来像であればこれはありですが、キャッチフレーズ、あるいはキャッチコピーとして流通させるようであれば、民間にも相談していただくと良いかと思います。なかなか難しいかもしれませんが、要望しておきます。

○会長

進め方について、今日ご意見を頂戴して、また次回の審議会までに修文したものをお示しいただくわけですけれども、この「世界に輝く ひと・まち たいとう」ということに、事務局としてはどれくらい固執なさるのですか。

○事務局

様々ご意見をいただいていますけれども、今回7回目の審議会ですが、事務局としては皆さまのご意見を積み上げてきた、それをまとめてこの将来像に込めた、というところは自信を持ってお示しをしているところですので、その点についてはご理解をいただきたいという思いはあります。

○委員

私は「世界に輝く」と先に出たのを見て、今までと少し違うなというイメージを持ちました。ところが、世界に何を輝かせるのか、何が輝くのか、という疑問も抱きました。今まで6回の審議会でも積み上げてきたときは、「ひと」が中心ということがかなりテーマになっていたかと思います。そうすると、世界に何を輝かせるかは置いておくとしても、今住んでい

る「ひと」、そこに来る「ひと」が最初に出てきたほうが良いと思います。そして、私もキャッチコピーは不得意なので出てこないのですが、「ひと」が輝き、そのひとらしく生きながらも世界にアピールができるまち、と世界を後ろに持って行って、あくまでもここに住むひとたちが世界とともに共生していく、世界とともに発展していくまちというようなところが出てくると良いのかと思います。何人か同じような意見があったかと思いますが、「希望と活力にあふれ、その人らしさを発揮できるこの素晴らしい台東を世界にもつなげていく、世界がつながっていくところなのだ」というようなイメージでできたら良いのではないかと個人的には思います。

○委員

先ほどおっしゃっていただいた「ひと」と「まち」ということが非常に大事だというお話は私も賛成です。とりわけ「ひと」というのが議論になってきたというのは、皆さんおっしゃったとおりだと思います。そして「ひと」が基本目標のどこに表れるかについては、四つの基本目標のうち、前の方の目標において、「ひと」という言葉は出てきませんが、台東区に暮らす人々、訪れるひとを主語にして、「ひと」が基本目標1では活力、基本目標2で成長する、と「ひと」に関することが表現されています。一方、後ろの目標は全部「まちの実現」になっていますので、落としどころははっきりして良いと思います。そのような意味では、この将来像の文言と基本目標は、よくマッチングしたかたちで理解できるのではないかと思います。今までずっと議論してきたように、「ひと」が主語でこの文章が動くというかたちが見て取れるので、もし文言整理をされるのであれば、「ひと」が中心、「ひと」が主語であるということを常に頭に置きながら文章を構成すると、意味合いがストンと落ちるのかと思います。そのような意味で、20年後は「ひと」が中心というメッセージがここに伝わっているというように理解します。

○会長

それぞれご意見を頂戴しまして、将来像に込める要素、意味についてはほぼご賛同いただいているかと思います。言葉の問題で、どこへ出しても疑念が出ない、注文がつかないような言葉、これは多分ある意味プロの世界のことであろうかと思います。この要素については間違いなくこれでよろしいかと思いますが、それをどう表現するかというのは、もう少し役所というところを離れたところでご議論のうえ、おつくりいただいて、候補を次回お示しただくということにさせていただいてよろしいでしょうか。

○委員

前にも発言させていただきましたが、区民憲章の策定時には、議論のうえ、全部平仮名表記にしました。今回この将来像を見せていただいて、「惜しい」と思いました。最初の「世界に輝く」のところに漢字がきたことで、全部絵柄が変わってしまう、風景が変わってしま

うように感じます。先ほど「TAITO」という意見も出ましたが、私はそれもありだと思いました。せっかく「たいとう」を頑張って平仮名にしたので、区民憲章からの流れも大事にして、全部平仮名表記となると、キャッチフレーズという意味合いでも随分強くなるだろうと思います。また、目から入ってくる印象として、平仮名は優しいという特徴があると思うので、ぜひその辺のご検討をお願いしたいと思います。

○委員

この文章は高齢者の方も読むと思いますが、「世界に輝く」というと、高齢者の方からは「私はもう世界に輝かないし、この言葉はもうどこか他の言葉ではないか」という感想が出るのではないかと思います。高齢者を見ていますと、「その日1日を幸せに有意義に生きていって、楽しく笑顔で1日が過ぎれば良い」というような方がたくさんいます。ですから、先ほどから出ている世界は、オリンピックでもないし、私はそうではなくて、「ひと、まちが輝く」、ひとが輝いて、まちが輝いて、それが台東区ではないかと思います。ひと、まちが輝きたいとう、「世界に輝く」は、委員がおっしゃられたように上に漢字がきていますので、やはり平仮名が多いほうが、どなたが見てもなじみやすく、すぐすつと言葉が入ってくるのではないかと思います。

○委員

私たちは観光をずっとやっているわけですがけれども、観光というのは書いて字のごとく光を観るわけです。先ほど委員からお話があった文化というのは、我々のまちにある光を探して、それを見てもらう、ないところにはつくり出すということをずっと心掛けてやっているわけで、光という言葉がどこかに欲しいと思います。そうすると輝きも出てくるのではないかと思います。

○委員

区長が「江戸ルネサンス元年」という言葉を盛んにスピーチの中に入れていますが、多分そのような思いはきっとおありなのではないかと思います。江戸から東京という流れをお考えになっているのではないかと思います。そのようなことからすれば、基本構想の中にそのことを、もう少し区長とお話ししていただいて、これが入り込むのかなというのが私の考え方です。

○委員

先ほど委員の質問で、将来像をキャッチコピーにしていきたいというお話がありました。私は、将来像は将来像でしっかり置いて、キャッチコピーはもっと柔らかい、違う方向性で考えたほうが良いかと思います。将来像はきちりこのようなかたちでまた基本構想をつくるわけですから、皆さんのいろいろな意見をしっかり集約して、その中で考えていただい

て、私は、これは非常に良いと思っています。ただ、キャッチコピーというのは少し違うのかと、それに捉えていくのは少し違うのではないかと意見を言わせていただきます。

○委員

この「世界に輝く」というのは非常に良いと思いますが、残念ながら台東区らしさが出ていないと思います。「ひと」も大事かもしれませんが、まちの前に、「粋」という言葉が良いかは分かりませんが、何か台東区らしさを入れていただければ、台東区の将来像だと誰でも納得できるような納得感が出てくるのかという感じがします。世界に輝く何とかのまち台東区のように、少し工夫していただければありがたいと思います。

○委員

「粋」といえば台東区になります。台東区は粋という言葉で通用すると思います。それから、私が区長に個人的に提案してあるのは、台東区という漢字はもうやめたほうが良いのではないかということです。「だいとうく」と言う人もいます。ですから、平仮名でたいとう、区は漢字でも良いと思います。台東という言葉は平仮名にしたほうが良いです。下手すると、台湾の人ですかと言われる場合もあります。その提案をしているところで、それが実現できるかどうかは問題ですが、思い切ってやればできると思います。

それから、今江戸という話が出ました。色々提案を考えたのですが、江戸というのは使いにくいです。ナンバープレートなどには江戸というのは良いのですが、その他に考えても、江戸という言葉は申し訳ないですが使いようがありません。これは皆さんが決めることで、区長の提案は関係ありませんから、それはそれで構わないと思います。

確かにこれから高齢化時代です。これは大変なことです。これはしっかり考えなければいけません。半分以上高齢者ですから、高齢者を考えて全て行動を起こさないといけないと思います。そうすると粋に輝くというのは、高齢者の皆さん粋に輝きましょうと、元気づける意味もあります。

○委員

「世界に輝く」とありますが、世界というと少々大げさな感じがします。ここを最初の主語に持つてくるよりは、「台東が輝く何々」と変える案はどうかと思います。平仮名がどうか、漢字がここに出てきてしまうから重い感じがするかどうかというのはまた別の考え方ですけれども、台東区はこのようなまちだという中で、歴史、文化を誇るというような部分も入れてもらって、そしてひととまちが絡み合う、そのような風景を想像させるようなものが良いと思います。

○会長

色々ご意見をいただきました。キャッチコピーにするかどうかということもありますが、

将来像自体は、具体的にはこのような将来像を描くということは本文の中で示されていて、それを一つの象徴として、将来像をここに出すというのが事務局の当初の提案であったかと思います。ここの中身も少し直さなければいけない部分もあろうかと思いますが、一応このようなかたちで表すということをご了解いただければと思います。

続きまして、第2章の基本目標Ⅰとして、「活力にあふれ多彩な魅力が世界に輝くまちの実現」ということで、主として産業、観光、文化の分野について基本目標を設定しています。いかがでしょうか。

○委員

第2章全体のことで一つ伺いたいことがあります。順番がどうこうというわけではないのですが、やはり第2章の最初、一つ目に何がくるかというところは、この基本構想において大事なのではないかと考えています。今の将来像のところの議論の中で、「希望と活力にあふれ」というのを最初に持ってきたほうが良いのではないかというご意見もありました。そうなってくると、この順番でも良いのかという気もします。ただ、小委員会などを傍聴し、皆様のご議論などを聞いていた中では、一つ目にまちづくりがきて、そこから波及していくというようなイメージを持っていました。だから、今までの議論の中身を考えると、全般的にはまちづくりがそもそもあって、そこから色々なものが推進されていくというイメージでした。なぜ最初に多彩な魅力になったのかご説明お願いできますか。

○事務局

先ほどの将来像、世界に輝くという部分が文言としては最初にきていて、ひと、まち、台東という流れになっています。世界に輝くというのは、区が誇るさまざまな文化など、そのような部分が大きなメインになってくるであろうということを考えると、自ずと基本目標のⅠは文化が入っているこの目標になったという順番になっています。

○委員

今の話で分かりましたが、個人的にはまちづくりが一番先ではないかという意見だけ言わせていただきます。

○会長

ということは、もし将来像のキャッチコピーのところの集約したところが変われば、順番も変わるというご理解ということですか。

○事務局

事務局としては、この案を、自信を持ってお示したところではあるのですが、審議会のご意見としてこの将来像を変えるということになると、当然その説明文も変わってくるだ

ろうということになると思います。そうすると、将来像を実現するための目標の順番についても当然変わってくるのではないかと考えています。

○会長

後でまたお伺いしなくてはなりません、将来像があって説明文があるのか、台東区はこうあるべきだという説明文があって、それを集約するコピーとしてキャッチコピーがあるのかということも、これもまた議論が必要かと思っています。順序については、将来像を実現するための目標であるということで、まず今の将来像であるとするならば、活力にあふれ多彩な魅力が世界に輝くまちの実現ということです。

それでは基本目標Ⅱ、「あらゆる世代が生涯にわたって成長し輝けるまちの実現」ですが、いかがでしょうか。文言そのもので、基本目標Ⅱというのは子育て、教育、生涯学習分野に関して特にということで、横断的な関わり合いは出てくるけれども、特に今の3分野に関してこのような基本目標にさせていただければということで出ているということです。

○委員

5ページのところですが、細かいことですが、例えば2段落目の最初の行で、最後のところで「まち全体を人が」という箇所において、人を漢字にしているわけです。将来像のところをせっかく平仮名にしている、この辺りは漢字が良いのか平仮名が良いのか検討していただけるとありがたいです。まちは大体平仮名になっているのですけれども、将来像と合わせて人というのは平仮名でも良いかと思っています。平仮名の「ひと」と片仮名の「ヒト」と漢字の「人」というのは、語感や意味合いが違うと思うので、それぞれ専門分野で使い方があってと思います。そのような意味では、教育の中では人というのは平仮名でも十分通用する意味合いがあるのではないかと考えています。将来像との関連で平仮名がよろしいのではないかと考えて、幾つか次の3段落、4段落もありますので、ご検討いただければ幸いです。

○委員

つくったものを色々な世代の方や国籍を問わず読まれると思いますが、この基本目標、本文を読まなくても、基本目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのタイトルを読んだだけで、ある程度理解できるようなことも必要になってくるのかと思ったときに、少し長過ぎて内容が頭に入らないという感想を持ちました。20字ぐらいで入れるほうが良いのではないかと考えています。例えば第2章のところ、「いつまでも健やかに自分らしく暮らせるまちの実現」というところで、実現は入れなくても良いのかと思っています。ここを下まで読まない方も多いのではないかと考えていますので、なるべく字数を少なくして、短く分かりやすくというのが必要です。その作業はかなり本文の内容を熟知しないとできない作業になってくると思うのですが、そこをとっても感じました。短めで分かりやすくということです。目標としているので実現と

いうのはなくても分かっていただけるのではないかと思います。

それから基本目標のⅠは、これはあえて将来像と同じようなものにされたのでしょうか。ほとんど重複していると思います。1番目に持ってこられるということで、似たようなものにあえてされているのでしょうか。

○事務局

将来像でも使っていますし、基本目標でも使っているというのは、この基本目標Ⅰを表す言葉としてふさわしいということで、選ばせていただいたということです。

○委員

この基本目標Ⅰが将来像とかなり重複してしまうのも、何かネタがないような感じになってしまうので、もう少しこの基本目標Ⅰも似たようなものにしないほうが良いのではないかと思います。あえて似たようなものにされるのであれば、やはり先ほどお話があったとおり、将来像と似たような基本目標Ⅰを最後に持ってこられたほうが、だからこのようなまちづくりにしたいのだというように、読み進めていったときにストンと落ちる流れになるかと思います。そここのところは私も考えさせていただいて、誰が読んでも分かりやすいものになれば良いと思いました。

○委員

20年後の輝かしい未来に向けての将来像であり、基本目標であるとは思いますが、台東区で生まれ育った者として、特に教育に関しては、輝かしいキラキラした世界だけではなく、正しい現実というものを見つめる必要があると私は思っています。台東区だからこそやはり戦争であり苦しい時代を過ごしてきた現実のある場所を持っている、歴史を持っている地域であるからこそ、その2段落目の教育に関する文章の中で、「未来を創造する子供を育むため、歴史や伝統、個性豊かな文化などを活かした教育を推進する」というのが、多分ニュアンスとしては全部含んでいращやるといのは理解するのですが、「台東区ならではの歴史や伝統、文化などを生かし、このような子どもを育てていく」、というようにしたほうが、より台東区が持つ歴史、台東区の文化というものを使っていくというようなイメージになるのではないかと思います。

○会長

ありがとうございました。基本目標Ⅱの教育の分野で、他にありますか。

○委員

第2章で気になるのは、子供の「供」が漢字というところです。これは今の風潮になっていますけれども、やはり一人一人の人格というか、子ども一人一人の個性は供という字で消

されてしまうような気がします。例えば「たいとうこども園」、「ことぶきこども園」というのは平仮名でこどもです。一般的に使われてきたのは「子」が漢字で、「ども」が平仮名です。こだわるようですけれども、最近法律の中でも漢字が使われるようになってきているので、それに合わせたのかもしれませんが、これは台東区の見識を持って良いのではないかと、その点では「子供」の「供」は漢字ではなく「子」が漢字で「供」は平仮名にすべきという意見です。

○委員

その「子供」の「供」に関しては、3回目か何かに私は質問した記憶があります。私には大きな違和感があります。法律的に、あるいは国の行政のほうの通達文書が漢字になることが非常に多くなってきているということなのですが、台東区としてはどうするかというのは、あのときは漢字の「供」でやっていきたいと思って使っていますという以降、詳しい説明はないままだったかと思います。その辺は、その後は検討されたのでしょうか。

○事務局

そのときの私のご説明が十分でなかったかもしれませんが、区では基本的に「こども」につきましても、法律や先ほど出ました認定子ども園のように、法的に平仮名を使用しているもの以外は漢字で統一するというので文書については作成しています。

○委員

そうすると、例えばこれは新たな基本構想ですので、20年後の姿を見据えてというときに、この委員の思い等で平仮名に変えることは、もう区の方針としてはあり得ないという理解でよろしいですか。

○事務局

はい。区で作成する文書につきましても、子供は漢字を使うということになっていますので、当然最終的な基本構想になるとときには、子供という言葉を使う場合は漢字で表記することになります。

○委員

検討の余地がないということですので、この辺は引きますけれども、そうすると文章の中に「子供たち」と多く出てくるので、いろいろ考える部分もあります。

それから、私も先ほどご発言があったように、基本目標のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳというのは、具体的にこのキャッチコピーなのか、キャッチコピーというよりは将来像に表れているものを、ある意味具体的にきちんと書いて良いのだらうと思います。そうすると、「活力にあふれ多彩な魅力が世界に輝くまちの実現」という表現はとても分かりにくくなってしまいま

すので、あまり将来像の文言にとらわれなくて、基本目標Ⅲのような表現の方が良いと思います。基本目標Ⅰになると、せっかくなさき先ほどご意見があった文化に関する事、伝統的な弊の問題など、それを土台として産業というよりも、目標だからより具体的なはずなのに分かりにくくなってしまって残念だなという印象を持ちました。それこそ台東区らしい文化という言葉をストックに出しても良いのではないのでしょうか。あくまで目標ですから、どのような文化を20年後までにきちんと実現していくのかということを出してしまえば良いように思います。

基本目標Ⅱは割と分かりやすいです。あらゆる世代が入っているし、成長し続けるというようなことがきちんと入れば分かりやすいというように、長さだけではなく、具体的というか、そのものをきちんと出していけばⅣのところ、誰もが誇りや憧れを抱くというのはなくても安心安全という、先ほど将来像のところでも何回も議論になったようなことの安心安全がどのような安心安全なのかということをストックに出して目標の文章にしたほうが分かりやすいのではないかという感想を持ちました。

○会長

ありがとうございました。特に基本目標Ⅰの「世界に輝くまちの実現」というのは、ほとんど将来像とかぶっているのではないかということで、この目標自体をもう少し具体的な内容の目標に直すということのご意見かと思います。今後一つの議論として、四つの基本目標を設定させていただき、施策の方向性との整合性でそれぞれの基本目標Ⅰであれば三分野で目標Ⅰをつくるということ、そして13ページにある基本構想のイメージというのは、それぞれの基本構想が独立してあるのではなく、それぞれが関わり合いを持って基本目標がつけられているということのイメージ、この辺はよろしいでしょうか。

○副会長

細かいことですが、並べ方の話についてです。私は専門がこの4番目のところになりますが、この順番でも良いというのが私からの意見です。というのは、全体の構成に関して順番はどうやってもうまく成立するのですが、全体として最初のほうが攻めの目標二つになっています。つまり、「活気をつくる」、「将来のひとをつくる」という、将来に向けての戦略、攻め、投資のような話が前半に出てきて、後半になると守りになっています。つまり保健や福祉で「ひと」としてのセーフティネットを張っています。全部が必ずしもきれいに分かれていないのですが、4番目は物理的な安心安全、地震や防災、防犯という物的な守りを張るということで、攻めと守りというかたちになっています。全体として輝かしいということが最初に出てくるわけですが、それも世界に輝くということ自体が、何かオリンピック、文化勲章、ノーベル賞というだけではなく、台東区では高齢者の方もいきいきと地域でほんわか幸せに暮らしている雰囲気になっているわけです。そのようなことを世界に輝くといってもまったく良いわけです。世界に輝くというような話は、攻めにも守りにも適用されることであ

るといようにむしろ考えたほうが良いのではないかと思います。

私どものような職業倫理であると、私どもはトリを取らせていただく、ハードウェアが全てを、インフラが全てを支えているので、最後は私どもなしでは全ては絵に描いた餅です。お医者さん方もそうおっしゃると思います。福祉の方もそうおっしゃると思います。前に出るという話ではないのですが、我々がいるから皆派手なことを言う、我々が下から支えている、分かっていますねという感じで後ろについているのかもしれないので、それを考えてくださっているのかもしれませんが。流れとして、何となく今申し上げたように、前半が攻めになっていて、後半が守りになっているような流れがあって、それが恐らく最初の文章の下のところをきれいに整理していく段階で、それを眺めながら、例えば安心安全という言葉も、実は第2章のⅣに出てくる安心安全というのは物理的なことなのですが、第2章のⅢにも安心という言葉が出てきています。恐らく第1章に出てきているこの安心安全というのは、もう少し広い意味で福祉的な安心や医療的な安心、あるいは子育ての世界でも安心して子育てできる、産業でもチャレンジングなことをするとなかなか中小企業は厳しいわけですが、そのようなところにも安全や安心という、そのような全部を含めて第1章の安心が出てきているというようなことです。そのようなことを考えていただいて、順番を戦略的に決めていただいて、流れをつくっていただければよろしいのではないかと思います。それで委員の皆さんの話を聞きながら、最適な流れを事務局でご提案いただくのがよろしいのではないかと思います。

○会長

ありがとうございました。第2章は四つの基本目標、それぞれの分野ごとに基本目標を策定し、それを全体的に連携させていくということです。

次に、第3章ですけれども、多様な主体と連携した区政運営の推進ということ、これは前回の審議会から少し章立ての文言が変わっています。その辺はいかがでしょうか。平和と多様性の尊重、パートナーシップの促進、国内外の都市・地域との連携、持続可能な行財政運営という、このような区政の推進のキーワードを入れていただいたということです。この第3章について何かご意見ありますか。

○委員

この第3章は、基本目標を実現するための区の体制、他の主体との連携の体制に関することだと理解しています。この柱立て自体には全く異論はないのですが、細かいことで、例えば12ページの「国内外の都市・地域との連携」があります。これは何のために連携をするのかということがあまり書かれていません。活力ある地域社会を維持するということが書かれていますが、少し抽象的かなと思います。この基本目標との関係でいえば、例えば防災に関する広域連携、災害時の援助協定の問題など、そのような面で台東区と他の自治体との連携ということもあります。あるいは地方創生的なこともありますが、都市部以外の

自治体との連携ということもあって、基本目標のどの部分を実現するための連携なのかということ、もう少し明確に理解できるようなことがあれば良いのかと思っています。

それから持続可能な行財政運営のところ、分科会の議論などでは、ICTやAIということが将来非常に重要な要素になるというお話がありました。多分行財政運営においても、まだ見通しは分かりませんが、効果的、効率的な区政運営というところに入っているとは思いますが、2040年くらいになりますと、技術革新への対応が非常に重要になってくると思います。この基本目標の第2章のところでは、正面からあまり触れられていないような気がしますので、場合によってはこの第3章のところでも触れても良いのかと思っています。ただ全体のバランスもありますので、ここの部分は事務局のほうで精査していただければと考えています。

○会長

ありがとうございました。このパートはそれぞれの基本目標の達成のために重要なことを挙げていただいていますけれども、それぞれの項目の中で特に強調すべき点もあろうかと思っています。その辺を取り込んで修正いただければと思います。

○委員

この目次のところを見たときに、この第1章、第2章、第3章ときたところの第3章と第2章をあえて分けているところがよく分からなくて、そして多様な主体と連携したというところは入れなくても良いのではないかと思います。この第3章にあたる部分というのは、先ほどお話がありましたように、将来の実現に向けての取り組みということでの認識でよろしいですか。

○事務局

こちらについては、区政運営をする際の基盤となる考え方です。どの目標にどれということではなく、全ての目標全般にわたって、やはり平和、それから多様性を尊重されなければいけないだろうといった考えの下に区政は運営していかなければいけないだろうというもの、あるいはパートナーシップを促進しながら区政を運営していく、国内外の都市、地域と連携しながら区政運営を進めていく、持続可能な行財政運営をしっかりとやって区政運営を進めていく、そのような基盤となる区の方針ということでもまとめさせていただいているものです。

○委員

分かりました。そうしましたら、この目次のところも、「多様な主体」というのをに入れていただいたのですが、区政運営の考え方など、そのようなもので良いのではないかと思います。何か期待してしまうというか、この多様ということが書いてあると、結構それで読み進

めてしまったのですが、あくまでもそのような連携が必要で、この基本目標が実現していけるということであれば、区政運営の考え方、将来像へ向けての取り組み、推進、多様な主体と連携したというのは目次に特に入れなくても良いのではないかと思います。11 ページのほうの第3章にも多様な主体と入れていただいたのですが、これは入れなくても、あくまでも実現に向けての考え方、取り組みというページとして使うほうが読みやすいかと思いました。

○会長

ありがとうございました。事務局の趣旨とすれば、前回の基本構想においては、第3章が区民の活動と区政の推進ということでもとめられていて、今回この基本構想をまとめるにあたって、より区民との連携、あるいは区以外、さまざまなものとの連携というものがより重要になってきたということを強調するために、多様な主体と連携した区政運営ということを入れていますので、読みづらければ直すべきであろうかと思いますけれども、そのような趣旨でよろしいですか。

○事務局

こちらの文章にも書いてあるとおり、今後区が単独で何か区政を運営していくというよりは、区民の皆さま、あるいは地域団体の皆さま、他の都市などと連携を取りながら区政運営を進めていかなければいけないであろうというのが非常に大きなテーマになってくるのではないかと、というところで、タイトルにも多様な主体と連携したという言葉を入れさせていただいたということです。

○委員

説明がありましたが、今回基本構想が前回とどう違うのかという議論の中で、この20年を見据えたときに、やはり多様性、多様なところとの連携というのは大きなテーマなところでもありました。それが第3章という独立した章の中で、多様な主体と連携したという言葉が良いかどうかは別として、多様というところと連携というところが明確に頭で出てきているということは、私は評価しています。ですから、できればこのままのかたちのほうが私としては良いのかと、そのようなところはしっかりなっているのかと思います。やはり題のところはある意味大事な部分でもあるので、何を主張したのか、どうしたいのかというところがとても明確に出ていて、そこは良いのかと思っています。

それから、先ほど委員からお話があったとおり、他地域との連携のところでは、やはり災害の話なども大事になってきます。持続可能な行財政運営に関しては、技術革新という部分というところもとても議論になっていたところで、他のところではなかなか触れにくいところではあるので、やはり文言的にその辺を入れておいていただいたほうが良いのかと思います。

○委員

11 ページのところですが、真ん中の平和と多様性の尊重のところの教育のところ、ぜひ入れていただきたいのは、これから 20 年にわたって子供たち、全てのひとが生き生きと学ぶ、主体的に学ぶという、この学びという概念がとても大事だと思います。生涯学習の点でもそうです。具体的な文言は後で整理していただければありがたいのですが、例えば「全ての人々の人権が尊重され、誰もが主体的に学び、生き生きと生活する」という学びということを入れていただければありがたいです。生活の中に学びがなければ生きていけないのではないかと思っています。教育の面から、ぜひ学びという言葉を工夫していただければありがたいと思います。

○会長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

皆さまからさまざまなご意見を頂戴し、それを再度まとめていくわけですがけれども、基本的に一つの将来像にまとめる、それを将来像と本文との関連をどうするかという、その問題が残っています。一つの将来像をつくって四つの基本目標、そして多様な主体と連携した区政運営というこの章立てで進めていくということについては、今後まだ審議会は続くわけですので、答申までの間に直したものを再度ご議論いただくというようなかたちになるかと思いますがけれども、枠組みとしてこのような方針の枠組みということでご了解いただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

それではそのようにさせていただきますと思います。

4. 議題 3. その他

○会長

次にその他と今後の進め方で、今日の議論を踏まえてどのように事務局としてお考えかということをお話しいただければと思います。

○事務局

長時間ありがとうございます。本日の議論をいただきまして、やはり将来像の部分は事務局としては自信を持ってお示しをしたところではあるのですが、その説明文とそれから基本目標の関係、その説明文なのか、ここは本来リレー的な部分になるのであろうというように、その辺の整理が若干事務局としては不足していた部分もあったかというところがあり

ますので、その辺についてはあらためて考え方を整理して、皆さまにご説明させていただければと思っています。

今後の審議会のスケジュールについてご説明します。

—次回審議会の開催ならびに今後のスケジュールについての説明—

5. 開会

○会長

ありがとうございました。次回が4月12日ということで、本日いただきましたさまざまなご意見を集約して、また新たな中間のまとめ案をご議論いただくということになるかと思っています。ありがとうございました。長時間にわたりご議論いただきまして、ありがとうございました。それでは第7回の審議会をこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。

(午前11時50分 閉会)

以上